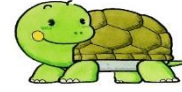


校報かめのこ

福生六小ホームページ <http://fussa-6e.hs.plala.or.jp/>

か	考える子
め	めげない子
の	伸びる子
こ	心豊かな子



カラスのイメージ

福生市立福生第六小学校

副校長 岡野 厚実

5月号に引き続き、鳥の話です。皆さんは、「カラス」と聞いて、よいイメージをおもちでしょうか。それとも、悪いイメージをおもちでしょうか。大抵の方は、悪いイメージをおもちの方が多いのではないのでしょうか。カラスといえば、ゴミを漁る、人を攻撃する、ドラマなどに登場すれば不吉な展開の前兆となる…。

私の前任校では、3、4年生の総合的な学習の時間に、「野鳥博士になろう」という野鳥を観察して調べる学習がありました。前任校は、周囲が山に囲まれた環境なので、2時間も散策すると十数種類の鳥を見る（鳴き声を聞く）ことができました。もちろん、その中にカラスも含まれます。

子どもたちは、カラスを見付けると「どっちだろう？」と言うのです。よく見られるカラスは大きく2種類あります。「ハシブトガラス」と「ハシボソガラス」です。見分けるポイントは2点あります。見た目と鳴き声です。見た目は、ハシブトガラスは額が盛り上がり、クチバシが太くて曲がっています。ハシボソガラスは、額が平らで、クチバシは細めで真っすぐです。鳴き声は、ハシブトガラスが「カーカー」と一般的によく言われる鳴き声です。ハシボソガラスは、「ガーガー」と少し濁ったような鳴き声です。

NHKの「読むサイエンスZERO」では、「羽毛のある類人猿」とカラスのことを紹介しています。ニワトリより体が小さいにも関わらず、脳の大きさが3倍あり、知的行動を司る脳については、圧倒的に大きいことが分かっています。そのため、人の顔を記憶できたり、数を理解したりできるのです。視覚でものを識別することができ、失敗しても成功しても経験値として脳の海馬に蓄積されていると考えられています。動画サイトでも、水道の栓をひねるカラス、自動車にクルミを割らせて食べるカラスなど、カラスの知性を見ることができます。

ここまでカラスのことをたくさん紹介してきましたが、カラスのイメージは変わったでしょうか。もしよろしければ、街中でカラスを見かけたり、鳴き声を聞いたりしたら、「ハシブトガラス」か「ハシボソガラス」か、見分けてみてください。

カラスのイメージはそう簡単には変わらないものかもしれませんが、私自身、イメージが180度変わった経験があります。

学生時代の話です。社会人サッカーチームに所属していた私は、チームメイトの中に「不愛想」で「怖そう」な人がいました。同じチームなので挨拶はしますが、その程度の付き合いでした。ある時、二人きりで話す機会がありました。よく話をしてみると、意外と共通点が多いことが分かり、それを機にどんどん話が盛り上がり、グッと距離が縮まっていくのを感じるとともに、その人が「明るく」て「楽しい」人だということが分かりました。この時の会話がきっかけで、今でも、長く友人関係が続いています。

動物や人に限らず「よく知る」ことで新しい出会いや発見があるとすれば、挑戦する価値があるようです。